

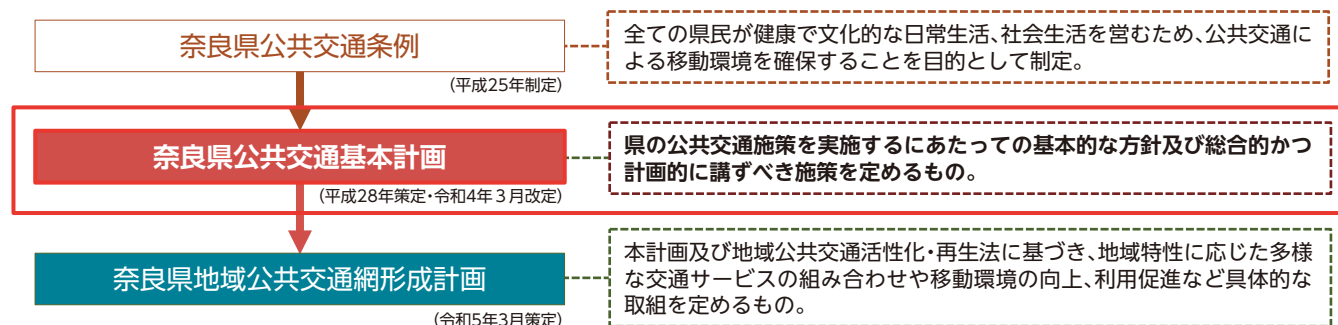
4 公共交通における取組

道路は、県民生活に密着したインフラとして、通勤・通学、買い物等、生活における多様な目的の移動の用に供する施設です。

本県では、人口減少や少子高齢化の進行のほか、就業の態様を含む県民のライフスタイルの変化、インバウンド需要を含む観光客の増加などを受け、自家用車に過度に依存しない交通体系を構築することが重要であることから、自動車交通の円滑化のみならず、公共交通における以下の取組を進めています。

(1) 奈良県公共交通基本計画

全ての県民が健康で文化的な日常生活、社会生活を営むため、公共交通による移動環境を確保することを目的とする「奈良県公共交通条例」(平成25年7月に制定)に基づき、県の公共交通に関する施策を総合的かつ計画的にするため、「奈良県公共交通基本計画」を平成28年3月に策定しており、県内公共交通の現状や課題、現計画に基づく取組の成果・効果検証、コロナ禍の影響・対応等を踏まえ、次の5年間の公共交通に関する基本の方針を定めるべく、令和4年3月に改定し、取組を進めています。



計画の基本理念

- ・「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ため、県民・来訪者の移動ニーズを支える県内公共交通とその拠点を実現する
- ・地域がより主体的に公共交通を維持・充実する取組に参画する
- ・持続可能な社会・地域づくりに貢献する公共交通を構築する

計画の推進施策

本計画の基本理念を実現するため、下記の4つの施策を推進します。

推進施策1 県内公共交通の維持・充実に向けた取組

- (1) 地域がより主体的に公共交通の維持・充実を図る取組の強化
- (2) 地域の輸送資源や多様な輸送モードの活用



市内フィーダー交通
〔五條市コミュニティバス〕



大宇陀南部ボランティア有償バス
〔宇陀市〕

推進施策2 公共交通に関わる空間の質向上

- (1) 地域の拠点としての駅・バス停等の質の向上
- (2) 誰もが使いやすい利用環境の整備



バス停の上屋整備
〔明日香村役場〕



エレベーター設置
〔平城駅〕

推進施策3及び4については、推進施策1及び2の実現を支える「横軸」として位置付ける

推進施策3 多様な関係者による連携・協働

- (1) 「奈良モデル」に基づく、市町村・交通事業者・県民等との連携・協働
- (2) 公共交通を担う人材の確保・育成



地域の関係者による協議



市町村担当者向けの
勉強会等の開催

推進施策4 時代の変革に対応した公共交通の構築

- (1) デジタル技術の活用による移動手段の確保や利便性向上
- (2) 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進



宇陀市の自動運転車両の実証運行



電気バス

(2) 主な取組事例

県内公共交通の維持・充実にに向けた取組

- ・地域の多様な関係者が参画する「エリア公共交通検討会議」において、地域の公共交通全体の維持・充実にについて協議
- ・南部東部を中心とする広域路線バス等に対し補助
- ・公共交通サービスが観光・福祉など関係分野にもたらす効果(クロスセクター効果)を算出
- ・地域住民や観光等の移動ニーズにきめ細かく対応する交通サービスの提供に向けた取組を支援
- ・貨客混載やサイクルトレイン等の複合的な交通サービス展開を支援
- ・県内各地で展開可能な、事業者連携型の広域自家用有償旅客運送モデルを組成



▲八木新宮特急バス 新系統「やまかせ」
(奈良交通より)



▲バス停の改良（白毫寺）

バス停高機能化に併せた利用促進策等の実施

- ・バス停の高機能化に併せ、地域の公共・商業施設と連携した利用促進策等の取組を支援

バリアフリー化の一層の推進

- ・電気バスやユニバーサルデザインタクシーの導入を支援
- ・鉄道駅の段差解消等のバリアフリー化を支援

デジタル技術の活用によるサービス向上

- ・公道での自動運転バスの実証実験を実施
共同市村(宇陀市・明日香村)
- ・県内への「空飛ぶクルマ」の導入を目指し、民間事業者と協力して市場調査を実施



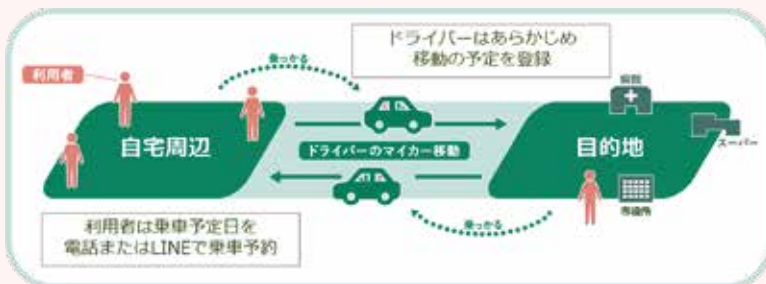
▲自動運転車両の実証運行（明日香村）

TOPIC トピック

地域と連携した公共ライドシェアの導入に向けた取組を進めています

移動手段の確保や公共交通の担い手不足への対応等を目指し、地域に住む方のマイカーを活用した「公共ライドシェア」の導入に向けた取組を進めています。

令和6年度は、宇陀市内で地域の自治会やまちづくり協議会と連携して実証運行を行い、7年度には市町村界を跨いだ広域的な運行を行う予定です。



▲新しい公共ライドシェアの仕組み